

平成28年10月21日

職員各位

八代市長 中村 博生

平成29年度予算の編成について

本年4月に発生した熊本地震から半年が経過し、仮設庁舎が整備されたことで、市中心部での行政機能も徐々に回復している状況であるが、八代地域全体としては、個人住宅や公共施設などの施設の損傷が残っている部分もあり、震災からの完全復旧には至っていない状況である。

今回の震災経験を通じて、いつ起きてもおかしくない自然災害に備え、災害に強い社会基盤の整備と地域防災力の強化を進めていくことは勿論のこと、震災の影響から一日も早く市民が立ち直れるよう、官民一体となって本市の復旧・復興を進めていく必要がある。

また、八代市総合戦略に基づき「地方創生」に関する事業についても、人口減少問題に対する課題等を認識し、地域活力の向上に繋がるよう、継続して取り組んでいく必要がある。その他にも、市として取り組むべき多くの課題が山積している状況である。

については、職員一人ひとりの英知を結集し、既存事業の必要性や有効性を厳しく検証の上、思い切った見直しを行うなど、限られた財源の中で、上記の着実な実行を果たす予算編成が確立できるよう、職員一丸となって取り組まれない。

八市財第294号
平成28年10月21日

各部長・部次長・支所長・
部政策調整審議員・課かい長 様

財 務 部 長

平成29年度予算編成方針について

平成29年度予算編成方針について、八代市予算規則第4条の規定に基づき以下のとおり通知します。

国においては、概算要求と同時に公表した「平成29年度地方財政の課題」において、政府の成長戦略に沿った施策に特別枠を設けると共に、「1億総活躍社会」実現のための施策にも優先配分する一方で、消費税増税の再延期で社会保障費が財政を圧迫する状況にも対応するため、「手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組む」としています。

熊本県においては、熊本地震の復旧・復興を優先するため、策定中の「熊本復旧・復興4カ年戦略」の中で優先度の高い施策から取り組むと同時に、将来の負担となる通常県債の残高を増やさない予算編成を継続するとしています。

本市においては、熊本地震という未曾有の災害を経験し、防災力を高めるために必要な「復旧・復興プラン」に資する事業に重点配分する必要がある一方で、社会保障経費は、高齢化の進展等に伴い年々増加しています。これらの財源を確保するためには、改めて、八代地域の活力向上につながる優先すべき事項を整理し、行政サービスを永続的に展開できるよう、無駄を徹底して排除していく必要があります。

また、これまで推進してきた市長八策、及び、地方創生で位置づける事業についても、指標どおりの効果を得られているかどうかしっかりと検証を行い、限られた財源の中で、本市の人口減少克服と地方創生の更なる推進につなげていく必要があります。

平成29年度当初予算編成にあたっては、こうした考えの下に編成しますので、各部課かいにおかれては、別添「予算編成要領」に基づき、予算要求書を提出されるようお願いいたします。